

新版

# 中学校 保健体育



## トピックス

スリーアール  
3R  
(Reduce, Reuse, Recycle)

ごみを減量するためのキーワードとなるのが次の3つのRの取り組みです。

● **Reduce**：ごみになる物の製造・加工、販売・購入をひかえて、ごみの発生量を減らす。

● **Reuse**：使用済みでも、もう一度使える物は廃棄せずに、そのままくり返し使う。

● **Recycle**：廃棄された物を、材料やエネルギーなどの資源として再生して利用する。



### リンク

地球規模の環境問題

▶ 保健編 p.83

## 学習を活かして

自然環境を守るために、家庭から出る廃棄物の正しい処理を呼びかけるリーフレットを作成します。キャッチフレーズを考えてみましょう。

(例) キッチンの排水口は、  
海への入り口！！

## キーワード

- |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 公害    | <input type="checkbox"/> ごみの減量 |
| <input type="checkbox"/> 分別回収  |                                |
| <input type="checkbox"/> 循環型社会 |                                |

工場の活動や人の生活にともなって生じる、広い範囲の大気汚染、水質汚濁、土壤汚染、騒音、振動、悪臭、地盤沈下などによる被害を公害といいます。日本では、1950～1960年代に公害による健康や環境の被害が社会問題となりました。水俣病はその一例です。

## 環境汚染への対策

1993年に環境基本法が制定され、自然環境を保全し、公害を発生させない社会づくりを世界各国と協力しながら進めています。国や地方自治体では、環境汚染を防ぎ、健康被害をなくすための基準値を定め、それが守られているかどうかを定期的に調べています。

わたしたちが身近に取り組むことのできる環境汚染への対策の一つに、家庭や地域から出されるごみの問題があります。ごみの減量は、社会全体で取り組むべき課題です。最近では、ごみを種類別に廃棄する考え方が浸透し、地域ごとに分別回収がされるようになりました。再利用できないごみと資源となる物を分別することで、ごみの量を減らし、資源を循環させて利用する循環型社会の推進が求められています。

わたしたち一人ひとりが、毎日の生活でできることをしっかりと実践していくことが、世界の人々の健康と環境を守ることにつながります。

### 環境への影響

- 生態系への被害  
(酸性雨、光化学スモッグなど)



### 光化学スモッグ

大気中の窒素酸化物などが変化してきた物質が原因で発生する。健康だけではなく、農作物にも被害をもたらす。

### 環境への影響

- 生態系への被害
- 土壤・地下水の汚染
- 悪臭



### 工場排水

水俣病では、かつて工場排水にふくまれた有機水銀が、川や海を介して魚に取り込まれ、その魚を食べた鳥や猫、さらには人が発病し、深刻な被害を生じさせた。